

双葉町民と交流

来日のタイ「原発の怖さ伝えたい」
農家2人

つくば

原子力発電所のもたらす影響と東京電力福島第一原発事故の被害状況を知らうと、タイの若手農業従事者らが21日、原発事故のため福島県双葉町からつく

ば市に避難している町民を訪ね、意見交換をした。原発のないタイでも、経済発展に伴い各地で建設計画が持ち上がっているという。双葉町民と交流した



双葉町からつくば市に避難した西内重夫さん(右)の話に耳を傾けるカムパン・スプロムさん(左)とチャナイ・ナロムさん(中央)＝つくば市で

のは、タイで有機農業を営むチャナイ・ナロムさん(36)と、カムパン・スプロムさん(37)。2人は日本国際ボランティアセンターに招かれ11日から25日まで日本に滞在する。町民の中村富美子さん(70)は事故当時の様子を振り返り「原発は安全という神話があったが、震災で崩れた」と強調。チャナイさんは「自分たちの地域がそうなら悲しい。原発の怖さを周囲に伝えたい」と話した。原発建設を目指すタイでは、メディアなどを通じて「電気が安定する」「雇用を創出する」など利点ばかり

伝えられてきたという。だが日本の原発事故以降、一般の人々からも安全性を疑問視する声が上がっていると。地方に原発を作り、都心部や企業などの電力を賄おうとする構図も日本に似ている。

カムパンさんは原発建設予定地から車で約2時間の場所に住み、原発反対運動を行う。「豊かな自然がなくなってしまう。ソーラー発電などの開発に力を注ぐべきだ。今以上に電気は必要なく、原発は必要ない」と憤る。両者をつないだ原発避難者を支援する「ふうあいねっと」の武田直樹副代表は「日本で起きてしまったことを教訓にし、判断材料にしてほしい」と話した。

【山内真弓】